

文化史学概論

第一講 序論：文化史学とは何か？

文化史学とは何かについて考えてみよう。文化史学を学習・研究する上で文化史学と歴史学の関係が明確にならないという問題がある。

まず文化史学と歴史学は同じなのか、それとも文化史学は歴史学の一部にすぎないのか、或いはそれぞれ独立した学問領域なのかを考えてみよう。

レポート（1）文化とは何か？

日本人サポーターがサッカー会場の観客席のゴミを片付けるという行為が時々新聞などに取り上げられる。美德として紹介されているのだが、別の国の人からすると清掃のために雇われている人の仕事を奪っているという観方もある。チップはレストランで働いている人たちの収入源であるのだが、日本人はチップを受け取ることはない。さらに給料を増やしてもらったらもっと働こうと考える人がいるかと思えば、余分にもらったので次の日は働かなくてもよいと考える人もいる。このように人は必ずしも経済的合理性だけで行動するわけではない。では何故、このような事が生じるのか？

文化史学とは何か？

文化史学とは仏像彫刻の美や様式、ルネサンス絵画、例えばボッティチェリやラファエッロ、ミケランジェッロ、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵を研究する歴史学だと考えていないだろうか？

文化史学との相違

それでは美学や芸術学、美術史と文化史学とはどう違うのか。

或いは文化史学はプラトンやアリストテレスなどの哲学や、仏教やキリスト教などの宗教、平安時代の女流文学や 19 世紀ヨーロッパの文学の歴史を扱う学問領域ではないかと考えていないだろうか？

それでは文化史学と哲学科で行われる哲学思想史、神学部で行われる宗教史、国文学科や英文学科で行われる国文学史や英文学史とどう違うのか。

或いは女性の服飾や中世の城郭や教会建築を扱うとも考えていないだろうか？

それでは文化史学は専門学校で扱われる服飾史や工学部建築学科で行われる建築史

とどう違うのか。

文化史学や歴史学は過去と現在に間にある多元的時空間。

それぞれの時空間は互いに接触し影響を及ぼしながら独自に生成・消滅。

時空間形成の根底にあるのは証拠、価値観と構想。

文化史学は過去を文化という視点から過去を観る学問。

文化史学が依拠する文化とは絵画や彫像、小説や宗教、哲学思想や倫理などに限定されない。

文化とは人間活動の総体を指しており、政治や社会、経済、さらには日常の生活も含まれる。

歴史学は外交史、社会経済史、社会史、文化史と軸線を移しながら平行移動してきたが、考古学は補助学と位置づけ、省かれてきた。

文字史料を重視する歴史学と遺跡や遺物など非文字資料を重視する考古学における研究方法の相違がその根底にある。

文化史学は文字史料と同時に非文字資料を重視する。

その意味で文化史学は歴史学と重なりながら考古学とも重なっている。

しかし文化史学と歴史学、文化史学と考古学は互いに重なりながら、別々の時空間を構成している。

文化史学は歴史学の一分野ではない。

レポート（2）：高校世界史 B の教科書にはノブゴロド公国やキエフ公国について次のような説明をしている。何が問題で、なぜそのような説明になってしまったのかを考えなさい。

「ドニエプル川中流域に展開した東スラブ人（ロシア人・ウクライナ人など）が住むロシアでは、9世紀にスウェーデン系ノルマン人がノブゴロド公国、ついでキエフ公国を建国、まもなく先住民に同化してスラブ化した。」（『改訂版 詳説世界史 B』山川出版社、140頁）

過去を捉える二つの柱

19世紀に成立した国民国家の枠組み

民主政成立史という枠組み



政治史と発展史観

近代と政治史の焼き直しでしかない

国民国家日本、イギリス、イタリアの枠の中で扱われる

証明されることのない国民国家への帰属性

プランタジネット朝の英国王はヘンリー2世、リチャード1世、ジョン、・・・と英語で呼ばれる。フランスの大貴族アンジュー伯アンリ、リシャール、ジャン・・・と呼ばれることはない

(2) の問題点

- ① 「ロシア人」の語源は「ルーシ」であるが、「ルーシ」はスラブ系の民族集団ではなく、ノルマン系の部族集団である。
- ② 「ロシア人」「ウクライナ人」は近代の区分け。この時代にそのような区分けが存在していたのか？
- ③ 「ロシア」という地名は近代の産物。
- ④ 「キエフ」は「ロシア」ではなく、「ウクライナ」の都市。